

**令和6年度県立特別支援学校
チャレンジ2024**

水戸特別支援学校 実施報告



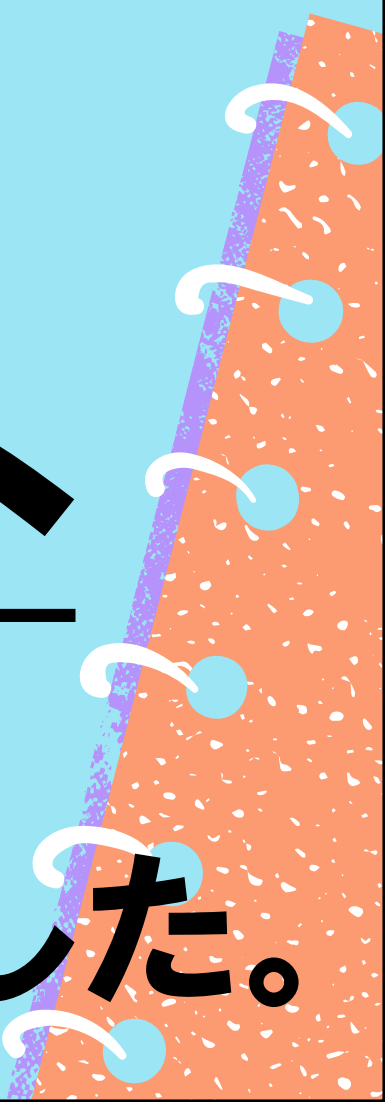
ICTで

「自分が変わる！」

社会を変える！」

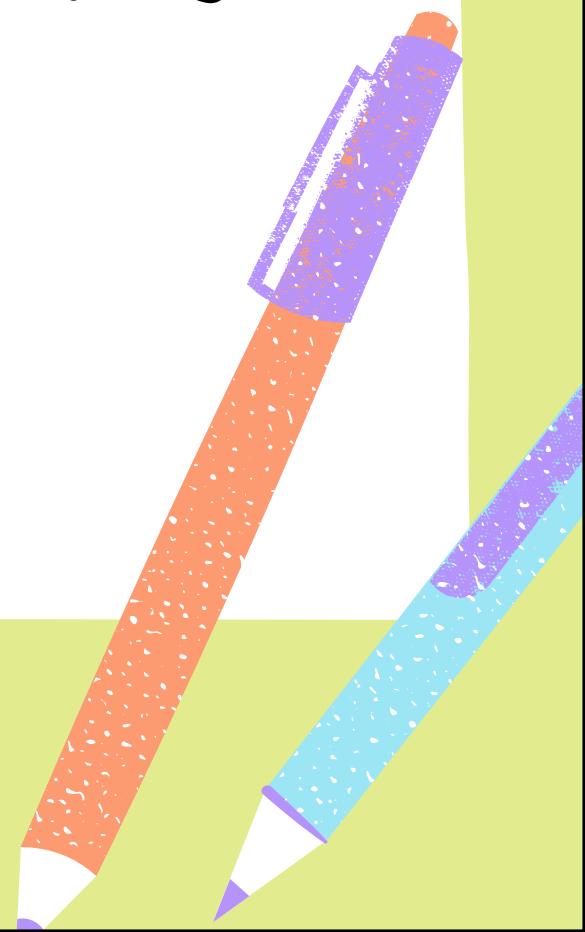
チャレンジプロジェクト

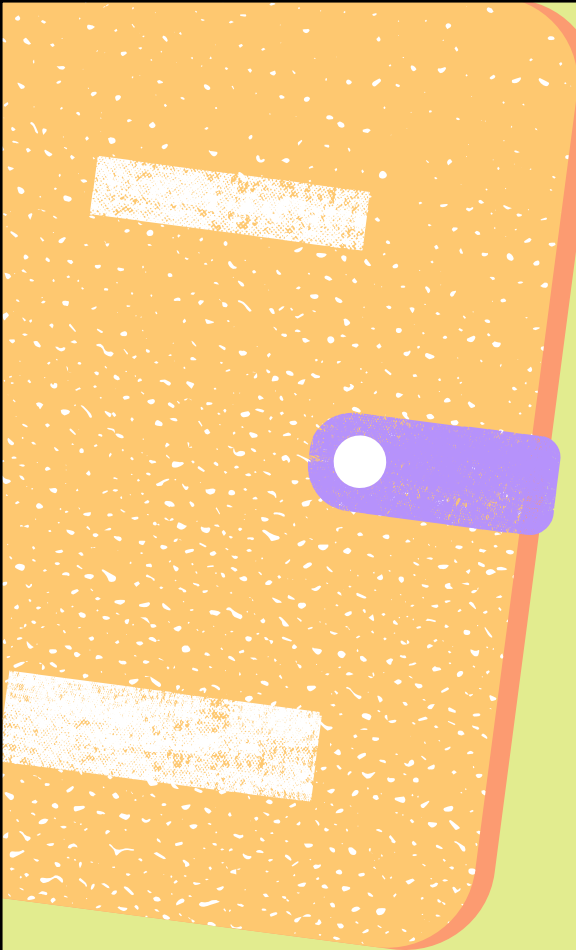
というテーマでこの1年取り組んできました。



<取組内容>

分身ロボット、視線入力装置
意思疎通アプリ付き P C を活用
したチャレンジ





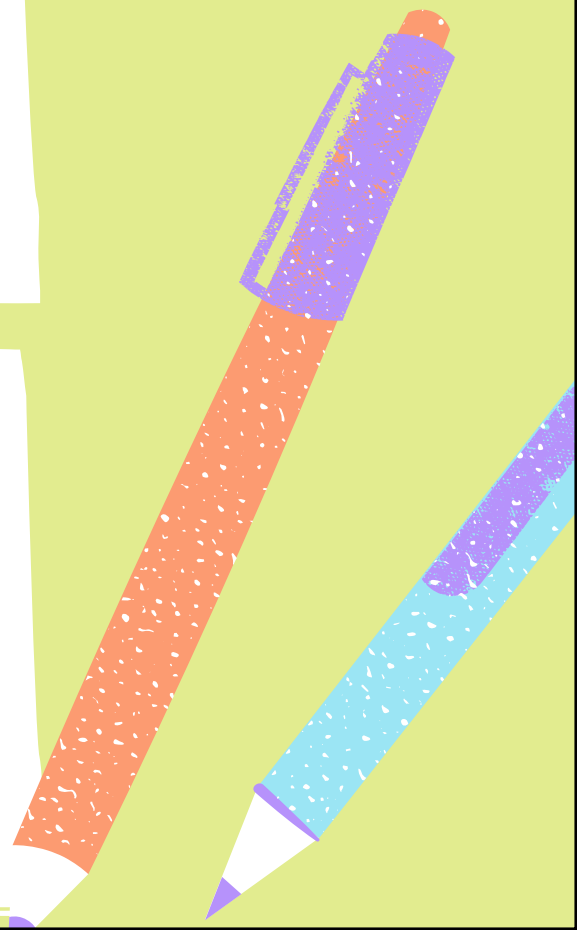
<成果>

目が見えていないといわれていた児童も、視線入力
の動きで見えている可能性があることが分かった。

児童生徒の意思表出が読み取れることで、教員側の
かかわり方や可能性を広げることができた。

やりたい学習内容や時間など、視線で選び、周りに
伝えることができるようになってきた。

オンラインでのスクーリング実施により、スクーリ
ングが難しい児童でも、友達と会ったり、学校内を
見学したりすることができた。



<取組内容>

重度肢体不自由障害のある方
のICT活用拠点に向けた
チャレンジ



<取組及び成果>

○ICT体験会 年間12回実施

○兵庫県立和田山特別支援学校

青森県立青森第一養護学校

岡山県立早島支援学校

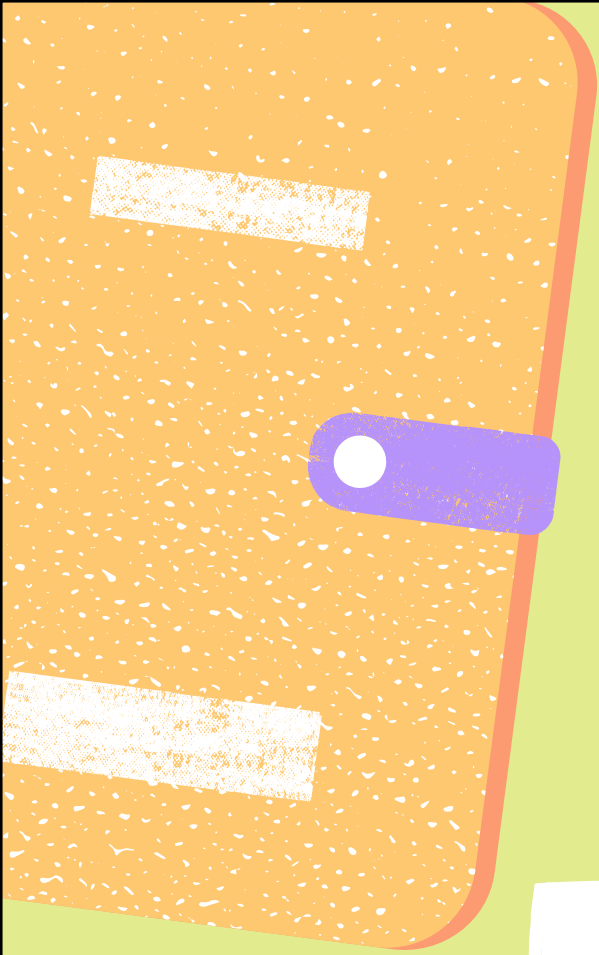
からの視線入力・デジリハの視察

○茨城大学教育学部の勝二教授の

視線入力に関する研究協力

<取組内容>

情報発信のチャレンジ



<茨城新聞掲載 (8月28日)>

(11)

こども

A版

第三種郵便物認可

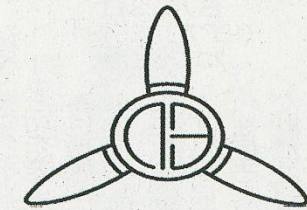
茨城新聞

2024年(令和6年)8月28日

水曜日

学校紹介
新聞

茨城県立 水戸特別支援学校



◆校長 高山忠昌
◆児童生徒数 174人
◆創立 1961年
◆住所 水戸市吉沢町 3979

ICT活用



触(ふ)れると動き出すデジタルア
ー
トに腕(うで)を伸(の)ばす児童

主体性を育てる授業

本校ではICT機器を活用した授業づくりを推進しています。その中の一つにデジタルリハビリツールを活用したものがあります。実態に応じて、全身や指先を使った動き、視線や発声などを各種センサーで読み取り、個々に合わせたアプリと組み合わせることで、子どもたちの主体的な動きを引き出していきます。パソコンや壁に映るデジタルアートは、「もっとやってみたい」という思いが主体的な活動につながり、より達成感を得られる学習になっています。指導の手だてをその場で流動的に変えて授業を行うことで、教職員と子どもたちで協働して授業をつくり上げています。

(自立活動担当教員)

大きな画面に映ったお坊さんに気付かれないように、身体を動かしてイタズラできるアプリが楽しいです。

(小学部6年 齊藤陸)



こんな
学校です！



「水陽祭」のロゴを披露(ひょうじ)する児童生徒会

笑顔あふれる「水陽祭」

水戸特別支援学校は、小学部68人、中学部47人、高等部59人、計174人の児童生徒が通う肢体不自由特別支援学校で

ています。

今年一番大きな学校イベントは11月に行われる水陽祭です。「仲良く！元気にみんなで盛り上がり！笑顔あ

チラシ折

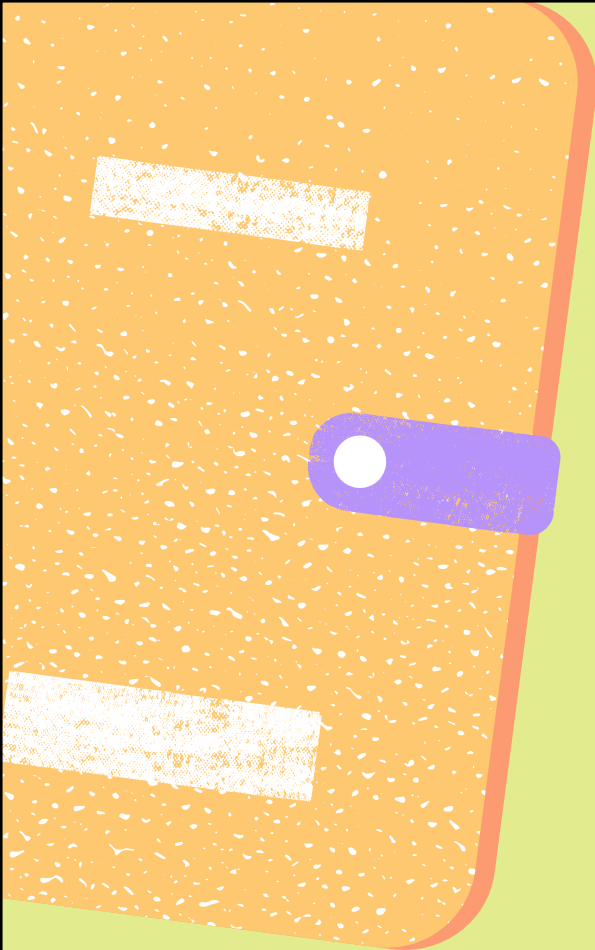


○茨城新聞社の学校紹介新聞に
文化祭やICT活用等が掲載

○ブランディング会社に
本校の取り組みをSNSで発信

<チャレンジ 2024 の 5 段階評価>

	学習での活用	コミュニケーション練習としての活用	就労体験等での活用（中・高）	ICT 体験コーナーの実施	相談窓口の設置 相談件数	出前授業	PR 動画	各種メディアへの発信
一段階	特別活動、遠足スクーリング、交流など、各学部で 1 回以上の活用	週に 1 回程度	各学部で 0 回以上の実施	4 回以上の実施	相談窓口未設置 相談件数 0 件	1 回実施	50 回未満再生	0 回以上
二段階	特別活動、遠足スクーリング、交流など、各学部で 2 回以上の活用	週に 2 回程度	各学部で 1 回以上の実施	6 回以上の実施	相談窓口設置 相談件数 1 件	2 回実施	50 回以上 100 回未満再生	1 回以上
三段階	特別活動、遠足スクーリング、交流など、各学部で 3 回以上の活用	週に 3 回程度	各学部で 2 回以上の実施	8 回以上の実施	相談窓口設置 相談件数 2 件	3 回実施	100 回以上 200 回未満再生	2 回以上
四段階	特別活動、遠足スクーリング、交流など、各学部で 4 回以上の活用	週に 4 回程度	各学部で 3 回以上の実施	10 回以上の実施	相談窓口設置 相談件数 3 件	4 回実施	200 回以上 300 回未満再生	3 回以上
五段階	特別活動、遠足スクーリング、交流など、各学部で 5 回以上の活用	日常的に活用	各学部で 4 回以上の実施	12 回以上の実施	相談窓口設置 相談件数 4 件	5 回以上の実施	300 回以上再生	4 回以上

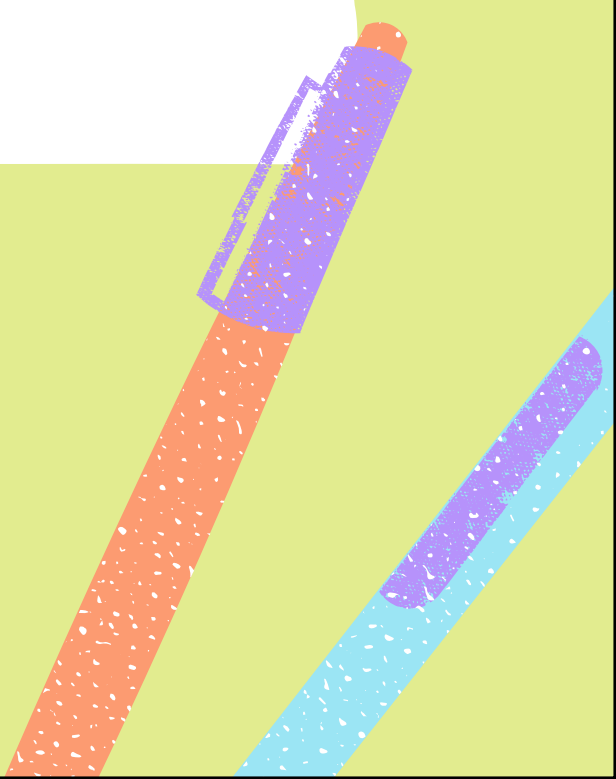


<取組の課題>

視線入力装置意思疎通アプリ付きPCが2台しかなく、使用を制限する必要がある、学校全体での利活用につなげることが難しかった。

重度重複肢体不自由児童生徒の視線入力による意思表示を、気軽に普段のコミュニケーションにつなげることの難しさを感じられた。

分身ロボットは、視線操作ができないため、自分の見たい方向を見るなどの活動・操作は難しかった。



ご支援をありがとうございました。

